
バカと転生者と召喚システム

FORCE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと転生者と召喚システム

【Zコード】

Z5292Z

【作者名】

FORCE

【あらすじ】

『バカとテストと召喚獣』に転生した『斬沢 拓哉』が原作キャラたちと楽しく学校ライフを送っていきます。・・・多分

プロローグ

俺は『斬沢拓哉』。今はとてもありえないことが田の前で起つて
いる。

それは、真っ白な部屋に汚いひげを生やした自称神様がいることだ
った。

「それで俺はその神様の間違いでここに来てしまった。といつて
か？」

「恥ずかしいことじやがそつなるの！」

俺はここに来る前にお魚加えた野良猫がトラックに轢かれそうにな
つたところを俺が飛び込んで、結果、お魚加えた野良猫が生き残り。
・・・・・俺が死んだ

そして現在に至るそうだ。それより

「俺はこの後どうなるんだ？自称神様」

「わしを自称神様と言つんじやないぞ！……まずは謝罪と
して生き返させてやるつ！」

「マジで！？」

「俺を生き返させてくれるんですか！？」

そうしたら俺はいろんな人に揉められるんだろうな
トラックに轢かれても死なかつた人へみたいな

「と言つても、お主が生き返つてもお主の体はもう焼かれておるだ

自称神様はどつかから取り出したテレビを俺に見せる
テレビに映っているのは火葬場で俺が焼かれていて、両親が泣いて
いる場面だった。

「くっ…もうここまで王手が指してあるとは……」
やつある

「お主が野良猫の代わりに死ぬのが悪いぞ！？」

もしかして俺が悪いのか？自称神様がそう仕向けたくせに…

「それじゃあ俺はどこに行けばいいんだ？」

「とにかくじゃ、お主が行くのは、『バカとテストと召喚獣』に行
つて貰うのじや」

バカテスか・・・・・・原作は一応知っているけど・・・・・本
当に大丈夫なのか？

「神様とやらは俺にその世界で生きていけといふのか？といふより
生きていけるのか？」

「お主ならいけるじやろうな？」

ちょっと待つんだ！そこで疑問詞はおかしい…といふことは俺は
原作キャラに会わなくてお陀仏になってしまふ確立があるといふこ
となのか！？

「大丈夫じゃそこまで心配はしなくていいのじや」

自称神様いわく大丈夫らしいんだが不安でたまらない・・・・・・
つとなると俺は転生者になるのか・・・・・・

「一応じゃが能力はどうするかのつへ・お主に決めさせよつではない
か」

なんて上から目線な発言なんだ!!
一応転生をしてくれると言つてゐるがそれがなかつたら俺は本氣で
殴りかかつていたところだ。

「神様にお任せするよ」

「無欲な奴じゃのう・・・他の奴は『頭を良くしてほしい』とか『
イケメンにしてほしい』じゃとか『金持ちの家に住みたい』とか言
つてくるんじゃけどな・・・」

「それじゃそんなことを言つてほしいのか?」

「いや神様として頼つてほしいのじゃが・・・まあいいのじゃそれ
では行くかのう」

えつーそれは今から転生するつて言つーと?横暴すぎぬよー。

「ちよつと待つんだ!俺の気持ちの整理がまだ整つていない!」

「大丈夫じゃ転生するときはこのボタンを押してからじゃ

自称神様はポケットから変なボタンを取り出した。

といつーとは俺の命はある自称神様の手の中つといつーとなのかー?

「やひやひフシの眼前から『自称』を消してほしいんじゃが?」

あれ?俺の心中読めてる?

自称・・・じゃなくて神様?

「あらためてバカテスに行つてこいなのじゃー!」

神様はボタンを押すと俺の足場がなくなっていた。
神様がこんなことをやつて良いのか？

「神様だからできたこと」

「てめえー！楽しんでるだろー！」

そうその会話が俺が穴に落ちりぬけの会話だった。

「うわああああああああー！」

え～と・・・これは何で言つんだっけ？

そうだあれだ！

「理不尽だ～～～～～！」

とこうことじで、高校生になつて一度田の毒がやつってきた。
もちろん舞台は文丘学園だ。

「なんて長かったんだ・・・今までの生活・・・

今までを思って起こすといらんなことがあった。
さすがに〇歳からやつていくのは長かった。ところがいつかやめてしま
ないのか！？

「まつたく・・・神様は能力について説明は無こじぱりやつて生き

て行けばいいのかわからんよくなってきたぞ」

俺が一人でブツブツいっているなか文月学園の校門が見えた。もちろんその校門には・・・

「斬沢、遅刻だぞ」

そこには拷問が待っていた・・・

じやなくて西村という名のオマージュに包まれた鉄人だった。

「そこで嫌な顔をするな！・・・・・・つたく受け取れ」「はい」

俺は鉄人・・・

「斬沢、それ以上あだ名を言うと補習だぞ」

「あれ？俺の心の中を読み取れるんですか？」

「ということは俺をあだ名で呼んでいたわけだな？」

あっ！はじめられた！

じゃなくて俺はにしむ「・・・鉄人から振り分け試験の手紙をもらつた。

もちろんラブレターではない。むしろラブレターだつたら失神して死んでいるところだ。

「斬沢、お前は本来Cクラスには行けただろうが・

俺は振り分け試験の結果を見るため開けてみると・・・・・

「何でお前は振り分け試験の日にちを一日間違えたんだ？」

Fという大きな文字が俺を迎えてくれた。

プロローグ（後書き）

この小説で2作目になってしましました！

こっちの『バカと転生者と召喚システム』ほうが良いという意見が多いのならば、最初に書いた小説は多分更新しませんかもですね。作者的にはこっちのほうがやりやすいですしね。

まあがんばっていきますので、よろしくお願ひします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5292z/>

バカと転生者と召喚システム

2011年12月17日22時47分発行